

短期間ではあるが、国際郵便用に発行された。地域別料金が発行され、UPU の規則の色で印刷されている。

発行年	発行目的	飛行機種	料額	発行枚数	印刷方式
1934年	航空切手 芦ノ湖航空	フォッカー7型3M機	8銭5厘	55	凹版
1929年	航空切手 芦ノ湖航空	フォッカー7型4M機	9銭5厘	220	凹版
1929年	航空切手 芦ノ湖航空	フォッカー7型5M機	16銭5厘	30	凹版
1929年	航空切手 芦ノ湖航空	フォッカー7型6M機	18戦	50	凹版
1929年	航空切手 芦ノ湖航空	フォッカー7型7M機	33銭	30	凹版

8 銭 5 厘：葉書：内地相互・朝鮮相互・朝鮮 - 関東州 55 万枚
9 銭 5 厘：値上：内地相互・朝鮮相互・朝鮮 - 関東州 220 万枚
16 銭 5 厘：葉書：日本～朝鮮・台湾・大連間 30 万枚
18 銭：書状：内地相互・朝鮮相互・朝鮮 - 関東州 500 万枚
33 銭：書状：日本～朝鮮・台湾・大連間 30 万枚



料金：地帯別 : : 発行枚数

発行年	発行目的	飛行機種	料額	発行枚数	印刷方式
1950年	航空切手 きじ航空	地帯別航空割増料金	16	50	凹版
1950年	航空切手 きじ航空	地帯別航空割増料金	34	100	凹版
1950年	航空切手 きじ航空	地帯別航空割増料金	59	150	凹版
1950年	航空切手 きじ航空	地帯別航空割増料金	103	80	凹版
1950年	航空切手 きじ航空	地帯別航空割増料金	144	80	凹版

16 円：第 1 地帯：朝鮮・中国・沖縄・香港など　：50 万枚
34 円：第 2 地帯：ガム・ヤップ・トラック・ボナヘ等　：100 万枚
59 円：第 3 地帯：パキスタン・インド・ハワイ・加・米本土：150 万枚
113 円：第 4 地帯：豪州・近東・欧州・中米　：80 万枚
144 円：第 5 地帯：NZ・南米・アフリカ　：80 万枚

基本料金は別：書状 24 円 (～ 20g)/38 円 (～ 40g)・葉書 14 円



五重塔航空

発行年	発行目的	飛行機種	料額	発行枚数	印刷方式
1951年	航空切手 五重塔航空 銭単位表示	ダグラスDC4型機	15円	300	グラビア
1951年	航空切手 五重塔航空 銭単位表示	ダグラスDC4型機	20円	500	グラビア
1951年	航空切手 五重塔航空 銭単位表示	ダグラスDC4型機	25円	1000	グラビア
1951年	航空切手 五重塔航空 銭単位表示	ダグラスDC4型機	30円	2000	グラビア
1951年	航空切手 五重塔航空 銭単位表示	ダグラスDC4型機	40円	800	グラビア
1962年	航空切手 五重塔航空 円単位表示	ダグラスDC4型機	15円		グラビア
1952年	航空切手 五重塔航空 円単位表示	ダグラスDC4型機	20円		グラビア
1953年	航空切手 五重塔航空 円単位表示	ダグラスDC4型機	25円		グラビア
1953年	航空切手 五重塔航空 円単位表示	ダグラスDC4型機	40円		グラビア
1961年	航空切手 五重塔コイル切手	ダグラスDC4型機	30円		グラビア

●宛先地帯別の航空割増し料金 (10g 毎) 1949-06-01 ~ 1951-11-30

●当時の国内航空郵便料金 (通常郵便物の基本料金を含む)

書状 (20g 毎) 葉書 印刷物等 (20g 毎) 航空速達

1951-10-24 ~ 20 円 10 円 15 円 (第 4 種) 40 円

1951-11-01 ~ 25 円 15 円 20 円 (第 5 種)

1953-07-15 国内航空制度は廃止 (速達制度に統合)

上記料金は、航空加算料金ではなく、普通郵便物の料金と航空料金の合計料金である。この料金用に、15 円 (第三種~第五種:印刷物など)・20 円 (第一種)・40 円の3 種の新切手 (五重塔航空) が発行された。再開直後の 11 月 1 日に料金が全面改訂され、最初の料金はわずか 1 週間だった。40 円は第一種重量便・航空速達、および第 1 地帯宛書状 (外国郵便) の料金に該当する。



立山航空

発行年	発行目的	飛行機種	料額	発行枚数	印刷方式
1952年	航空切手 銭単位立山航空	ダグラスDC4型機	75円	300	グラビア
1952年	航空切手 銭単位立山航空	ダグラスDC4型機	80円	200	グラビア
1952年	航空切手 銭単位立山航空	ダグラスDC4型機	85円	50	グラビア
1952年	航空切手 銭単位立山航空	ダグラスDC4型機	125円	300	グラビア
1952年	航空切手 銭単位立山航空	ダグラスDC4型機	160円	300	グラビア
1952年	航空切手 円単位立山航空	ダグラスDC4型機	55円		グラビア
1952年	航空切手 円単位立山航空	ダグラスDC4型機	75円		グラビア
1952年	航空切手 円単位立山航空	ダグラスDC4型機	80円		グラビア
1952年	航空切手 円単位立山航空	ダグラスDC4型機	85円		グラビア
1952年	航空切手 円単位立山航空	ダグラスDC4型機	125円		グラビア
1952年	航空切手 円単位立山航空	ダグラスDC4型機	160円		グラビア

●立山航空

1951年12月1日：外国航空郵便の改正。これまでの割増し制（基本料金に航空料金を加算していく）ではなく、総合料金制となった。

1952年2月11日：新料金に対応する航空切手6種（55円・75円・80円・85円・125円・160円）が発行された。図案は「立山連峰の剣岳（別山から見た景観）とダグラスDC4型機」で、「立山航空」と呼ぶ《a16w》。表示は銭単位である。シート構成は50面（5×10）。

1952年（昭和27年）度から郵便切手の額面を円単位で表示することになった。7月1日、立山航空切手6種を円単位に改めて発行。1952年8月～1953年10月にかけて五重塔航空も円単位に改めている。



大仏航空

発行年	発行目的	飛行機種	料額	発行枚数	印刷方式
1953年	航空切手 大仏航空	ダグラスDC4型機	70円		グラビア
1953年	航空切手 大仏航空	ダグラスDC4型機	80円		グラビア
1953年	航空切手 大仏航空	ダグラスDC4型機	115円		グラビア
1953年	航空切手 大仏航空	ダグラスDC4型機	145円		グラビア



●大仏航空

1953年に発行された。1953年7月1日の外国航空郵便料金の値上げに対応して、8月15日に70円・80円・115円・145円の4種の航空切手が発行された。

70円：第3地帯：米・加・豪 書状10g毎の料金
115円：第4地帯：欧州・中南米 書状10g毎の料金
145円：第5地帯：アフリカ 書状10g毎の料金
180円：第5地帯：アフリカ 印刷物等の20g毎の料金

解説文は

うめ 日本切手図鑑 2008

より 借用させていただきました。